

平成 20 年 3 月 31 日

新 宿 区 長

法 人 名 NPO 法人
 コミュニケーション・スクエア 2 1
 所 在 地 東京都新宿区三栄町 17
 齊藤第 2 ビル 1 F
 （フリガナ） オオツカ キミヒコ
 代表者氏名 大 塚 公 彦

事 業 実 績 報 告 書

新宿区協働推進基金条例施行規則第 19 条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	「心のバリアフリー」で共生社会を目指す自主上映会
実施日時又は期間	平成 20 年 2 月 9 日
対象者の範囲及び人数	新宿区内在住または勤務している人。区内の小・中・高・大学生。 心のバリアフリーでノーマライゼーション社会構築に関心のある人。 100 名
事業内容	映画上映会+講演 「無名の人」～石井筆子の生涯&監督・宮崎信恵のトークショー
具体的な活動状況	上映会「無名の人」・監督宮崎信恵のトークショー 日時：平成 20 年 2 月 9 日（土） 会場：四谷地域センター（多目的ホール） 時間：13：00～開会 大塚理事長挨拶 宮崎信恵監督紹介 13：30～映画上映 15：00～トークショー 宮崎監督による「心豊かに生きていける共生社会を どのように築いていけるか」の講演および質疑応答
事業の成果	明治、大正、昭和にかけて、女性の社会的地位と障害者福祉の向上に 生涯を捧げた石井筆子の先駆的生き方を、多くの人に知ってもらうこ とができた。 悪天候にもかかわらず多くの人が足を運んでくれたことで宮崎監督と の活発な意見交換ができ、この映画が伝えようとしているメッセージ を明確に受け取ることができた。

2 助成対象事業費内訳（実績）

内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経 費	積算根拠（内訳）		金 額
	団体負担金			313,945円
	参加費・資料代等	上映会参加費@1,000×47人=47,000円 @500×2人=1,000円		48,000円
	その他の収入			0円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		345,000円
	計			706,945円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費 目	決算額	内 訳	
	会議費	61,710円	四谷地域センター-上映会会場費 7,800円 会議室使用料 @8,400×3回=25,200円 会議資料費@3,150×4=12,600円 打ち合わせ2回(@8,340+@7,770)16,110円	
	宣伝費	63,600円	チラシ及びリーフレット制作費 54,600円 チラシ北°-代 9,000円	
	リース費	153,500円	上映ソフト借用料 80,000円 プロジェクター等借用料 73,500円	
	消耗品費	30,710円	プリンター用インク 5,250円、メモリーカード 7,680円、ファイル 7,080円、 パソコン 5,790円、事務用品 4,910円	
	謝礼	209,455円	映画監督謝礼 20,455円 映写技師謝礼 30,000円 スタッフ-ター謝礼@3,000×3人×5日=45,000円 ボランティア謝礼@3,000×38人日=114,000円	
	人件費	65,000円	委員@3,000×3人×5日=45,000円 報告書作成人件費 20,000円(@4,000×1人×5日)	
	材料費	31,500円	パネル及び看板制作費 31,500円	
	交通費	54,400円	委員@800×3人×5日=12,000円 スタッフ-ター@800×3人×5日=12,000円 ボランティア@800×38人日=30,400円	
	その他諸経費	28,090円	郵便代 80円×200枚=16,000円 定形外3通=2,010円 機材運搬費 9,450円 銀行振込手数料2件 630円	
	助成対象事業費（小計）	697,965円		
	余 剰 金	0円		

助成対象外事業費	8,980 円	ICレコ-ダ 8,980 円
事業総額		706,945 円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	映画「無名の人」上映を通じて、人と人との繋がり・共生社会への理解啓発を当初の目的とした。 当日のプログラムで、宮崎信恵監督とのトークセッションがあったことで、双方向のコミュニケーションがとれ、「共生社会」について改めて深く考える機会となった。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	CS21 のあらゆるネットワークを通じて参加を呼びかけた結果、新宿区内をはじめ広く東京都内から様々な背景を持った観客が集まった。例えば学校の障がい児学級の担任や、家族に障がい者を持つ参加者の意見を、会場で直に聞く機会に恵まれたことで、非常に多くの気づきが得られた。 このような地域住民一人一人の意識の改革が社会資源の一つであり、「違いを豊かさに」をテーマにした共生社会への第一歩となる。
新たに気づいた課題は何か。	同じ時期にドラマ仕立ての映画が封切られたり、NHK で取り上げられるなど、石井筆子の生き方について見直されてきた時期ではあるが、まだまだ認知度が低く、もっと大勢の人に観てもらうためには、もう少し違った呼びかけを考えなければいけないと思う。
理解者や支援者が広がったか。	石井筆子の生き方にこの映画で初めて触れた人たちが多く、アンケートには、その生き方に感銘を受けたという声が多数寄せられた。また参加者からは、この映画を通じて、社会の人たち一人一人の意識改革が出来るので、是非他の機会も企画して欲しいという感想も寄せられた。
事務局の執行体制は十分だったか。	NPO 活動を支えるメンバーの多くは仕事を持ちながらの活動であるため、機材の事前の調整が少し足りず、観づらい面もあった。また観客動員のためチラシ配布や連絡など手を尽くしたが、当日の悪天候のため、見込みほど出足が伸びなかったことは残念であった。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	本年度は福祉映画上映という形をとったが、現在福祉の分野で日々活動している NPO などを中心としたシンポジウムの開催なども、「共生社会への啓発」へのアプローチとして優れていると思われる。NPOCS21 では3月末に「今 女性が輝く社会起業とは」と題してシンポジウムを開催し、共に考える機会を持った。
その他	

4 活動の成果

* 事業の成果物(冊子など)又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。

* 参加者の意見なども報告してください。

参加者の声

【アンケートより】

- 「生きていくことを学ぶ」学習の根本を改めて見直した。障害者も健常者も。ありがとう。
- 自分の知らなかった人の生きがいを知ることが出来てよかったと思います。
- 度重なる逆境を盾に、強い信念の下、障害者について見つめ続けていた彼女に深い感銘を受けました。この映画を通じ、社会一人一人の方への意識改革の呼び水になるように願っています。
- また機会があれば観たい作品でした。良い作品をこれからも提言してください。
- 楽しむための映画ではなく、考えるための映画が見れたことが良かったです。
- もっとPRをして欲しい。
- ついでに、NPO や滝乃川学園、ピースクリエイトへのカンパを募っても良かったと思います。(個人の貧者の一灯として)
- 大変良い映画でした。このような映画に出会い感謝します。石井筆子さんのような人が、あの明治時代にいたのを知り感動しました。
- 本物に触れることで自分の中の思いがはっきりと確立でき、個人個人(一人一人)の力が育ち、大きな力と繋がっていくと実感します。今日は本当に貴重なすばらしい映画を見せていただき、感謝いたします。また、自分の生き方も学びます。

写真

配布チラシ